



と金ホームページに検索→と金クラブ将棋教室 H30.9.8 第184号 編集責任者 後藤克義

【文化庁伝統文化 親子教室事業、と金親子将棋教室実施中】

9月 長月(ながつき) 日増しに夜が長くなるので「夜長月」。それが「長月」になったといわれています

花 彼岸花(ヒガンバナ) ダリア芙蓉(フヨウ) 秋桜(コスモス) 女郎花(おみなえし) 萩金木犀(キンモクセイ) すすき 銭葵(ぜにあおい) 白詰草(しろつめくさ) **魚介** 鱒(さわら) 鯉(かつお) 鯖(さば) 秋刀魚(さんま) **野菜** 茄子(なす) 冬瓜 オクラ かぼちゃ しめじ さつまいも など。



自分の弱さを認めることが、弱さを克服することにつながる(安次嶺隆幸記・日本将棋連盟学校教育アドバイザー)

戦法にしても、自分の得意・不得意があることでしょ。相手が得意な戦法においては、素直に相手のほうが上だと認めることができれば、そこでは相手の言い分を聞いてみようという態度で臨めます。感想戦などで、その分野の専門家の声に素直に耳を傾けてみることで、「なるほど」と感じることは多いものです。**勝負では負けてしまったとしても、その経験を参考にして、次の機会に自分で応用できればよいのです。**

自分の弱いところを素直に認める勇気を持つことが、相手の学びから自分も多くを学び取ることにつながり、大きな視点に立ってみれば、自分の弱さを克服することにつながるのです。

羽生三冠は、しばしば相手の得意戦法に敗れて立ち向かっていきます。何も戦法を相手に合わせる必要はありませんから、素人考えでは、相手が得意な戦法を避けて、違う戦法で戦えばいいようにも感じられます。

しかし羽生三冠は、相手が自分よりその戦法に秀でていると認めているからこそ、言い換えれば、**自分の弱さを認識しているからこそ、敗れて相手の得意戦法に挑んでいるのです。**相手の学びを自分も学ぼうというその姿勢、その謙虚さ。ひょっとすると、これこそが羽生三冠の強さの秘密なのかもしれません。

自分よりもっと上があり、まだまだ学ぶべきことがある。そう思える謙虚さが、学び、成長する原動力になるのです。

と金こども将棋塾風景

と金クラブ将棋教室の中級以上でもう少し棋力向上を目指したい生徒(定員20名)に毎月第3土曜日午前9:30~12:20(但し午後のと金クラブ将棋教室と重なった場合は12:00)までの特別講座を実施しています。

まだ余裕が有りますのでご希望の場合は後藤迄



魅力・勝負の根幹にある『礼に始まり礼に終わる』という文化 【佐藤友康ライター「将 Give」主催記】

● 将棋における「三つの礼」のタイミング

将棋には三つの礼のタイミングがあります。一つ目は、対局前の「お願いします」。まずは相手と勝負にあたっての気持ちを整えます。二つ目は、対局後の「負けました」。これは負けた方が宣言することで、勝負が終わります。三つ目は、感想戦後の「ありがとうございました」。対局を無事に終えれたことを相手に感謝しましょう。一局を指す間に3回も、相手への敬意と感謝を表しますから、将棋と礼の文化は切り離せないものなのです。

● 棋力や年齢は無関係！全ての相手に敬意と感謝を

プロだけではなく、アマチュアでも、有段者でも、初心者でも、小さな子供でも、年配者でも同じように礼を重ねます。マナーであり、そういう文化が将棋に強く刻まれています。将棋は、相手があつてこそその真剣勝負です。相手がそこにいてくれたからこそ、一局が成立したのですから、相手への敬意と感謝を持つのは自然なことですね。それを自分の言葉として表すことで、おおらかな心が自然と育つのです。

● 将棋を通じた温かなコミュニケーション

「礼」がベースにあり、相手があつてこそその真剣勝負でした。将棋を指す人は、将棋を離れたところでも敬意と感謝を持っているので、温かなコミュニケーションは残ります。

8月開催の昇級・新入会者

8月4日分 大草歩睦君初段昇、竹下航平君6級昇、加納歩人君7級昇・上級Bへ、小川遼馬君9級昇・中級Aへ

8月11日分 堀隼輔君7級昇・上級Bへ、岡田晃成君9級昇・中級Aへ、伊藤慈晃君・鎌倉直哉君共に11級・中級Bへ、一般・村瀬晃一様参段昇。

10月の開催日 愛知東邦大学・アクティブ・ラーニング(食堂) PM1:30~PM4:20

10月13日(第2土曜日)・10月27日(第4土曜日)